第６８回淀川水系流域委員会
「丹生ダムについて」

丹生ダム建設予定地の住民として、初めて傍聴しました。感想を申し上げます。率直に申し上げますが、あまりにも程度の低い議論に愕然としました。暴論のオンパレードで、およそ立派な学者・研究者の議論と掛け離れた展開に呆れるばかりです。（一体何を議論しているの）という発言がありました。まさにその通りであります。宮本委員長、川上担当者の進行に猛省をお願いしたいと思います。

このような委員会では、専門的な知識をお持ちの学識経験者のせっかくの頭脳が発揮されず非常にもったいないと思います。

専門知識以外での発言を繰り返す委員は、（農家は水をただで使っている）（琵琶湖を掘り下げろ）（床下浸水ぐらいＯＫ）など、上げればキリがありません。どうなるかと心配しましたが、幸いしっかりした委員もおられ、暴論を論していただいたことで、少しは安心しました。

また、発言される委員が少なく、指名されても断る委員がおられ、びっくりしました。発言しない委員は辞任すべきです。

そこで、私は淀川水系流域委員会と河川管理者に質問します。

淀川水系流域委員はそれぞれ専門の対象分野を持って参加されました。委員の皆さんは、河川管理者の提案した原案について、各自の専門的な分野での意見を述べるのが仕事であります。

ダムなどに対する評価や考え方も各委員によって違うはずであります。宮本委員長は、河川管理者の示した原案について委員の意見を聞き、委員会としての意見をまとめようとしておられるが、これは全くの誤りであります。

結論を一つの方向に持って行くことは、せっかくの議論を無駄にします。委員会に課せられた課題は、ダム建設などについての結論を出すことではなく、委員から出された意見のすべてを河川管理者に渡すことだと考えます。

河川管理者は、その意見に基づいて、適切な判断を下すべきと考えます。
淀川水系流域委員会は、一つの考え方で組織された運動団体ではないと思います。

以上の点についてご回答をお願いします。

2007.12.14　　滋賀県余呉町　二矢秀雄